

B—26 被服構成に関する教材研究
婦人用ズボン (Slacks) の構成におけ
る製図的理解

岐阜女子短大 ○道家 三季
大竹 節子

1. 被服構成に関する教材研究の一端として、すでに衿・袖について述べたが、今回は衿・袖と同じ目的をもって婦人用ズボン (Slacks) について研究を進めることとした。

婦人ズボンを構成するに当たり、その製図は伝習的に修得するところが多い。そこで身体と製図の関連性および機能の在り方を人体の動きによる体形の変化とともに分析して考え、機能と寛度 (ゆるみ) の相関性を原理的考察し、理解した上での指導でありたいと思うのである。

2・3. 人体の計測を行ない、その中で最も多い寸法を基にして、計測した人体との関連性をもたせながら機能を如何に取扱うかについて、計測した寸法を分析して考察を行なった。

製図に必要な寛度は機能量と密接な関係を持っており、その機能量を最少寛度であるとした。この機能量すなわち最少寛度を持つズボンは最も Tight なズボンであると考え、計測寸法に機能量すなわち最少寛度を足したものであるとした。また、機能量は後身頃に必要とされ、その幅と丈に含まれるものと考察して製図を行なった。